

自立した学習者を育む教育の創造

～個の育ちを支える自立した教師集団の取組を通して～



—— 学びの相似形 ——

I 主題設定の理由

1 社会の要請から

- 複雑で予測困難な時代の到来
- Society5.0時代の到来
- グローバル化
- 子供たちの多様化

● 令和3年答申

「令和の日本型学校教育」の実現

● 令和4年答申

教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」を実現

教師も子供も **自立した学習者**に

2 本校の子供の実態から

- 小中併設特認校・完全複式学級（小学部）
⇒ 細やかな子供理解と個に応じた指導の充実が必要
- 「主体的に学ぶこと」に関する意識調査（R5）

Q よりよい学校を創るのは、自分だと思いながら行動していますか。…「いつもしている」→ 0%

⇒ 子供自身の「学びの主体は自分である」という意識を醸成する手立てが必要

Q 自分の考えを表現することができますか。

…「できる」→ 31%

⇒ 子供一人一人が安心して自己表現することができる環境づくりが必要

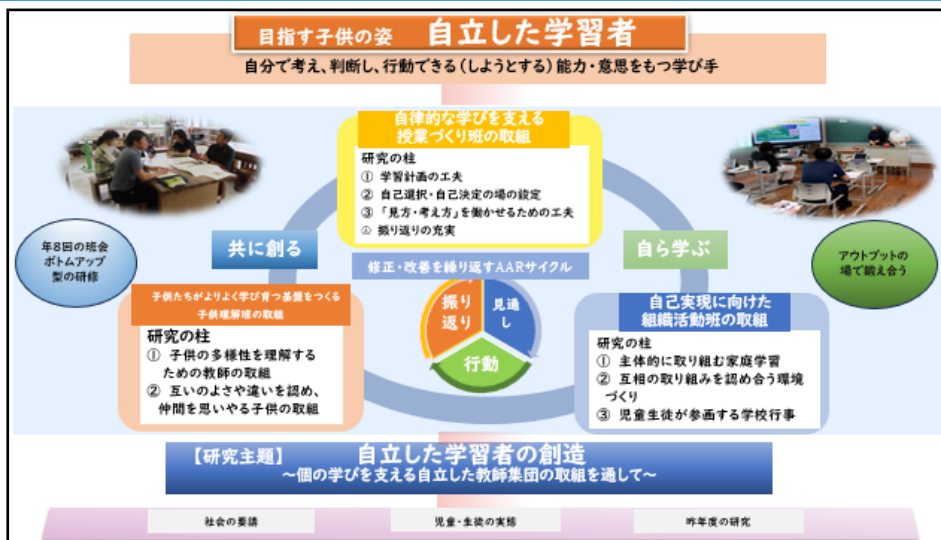
II 研究の構想

崎原カフェ

CanvaやKahoot!の使い方等を希望者で学び合う場

写真de語る

互いの授業実践を、写真を基に語り合い、共有する場



中間発表会

各班の研究・実践をプレゼンで発表し、高め合う場

授業デザインアップデート会

授業デザイン案をアップデートさせる場



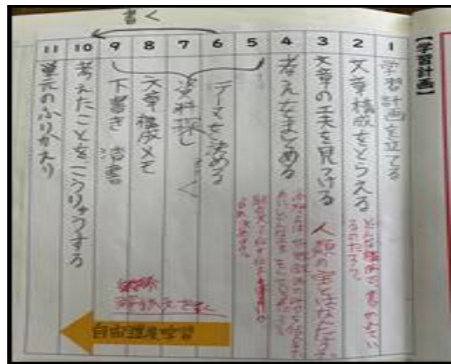
Ⅲ 各研究班の取組

自律的な学びを支える授業づくり班の取組

- 学習計画の工夫
- 自己選択・自己決定の場の設定
- 見方・考え方を働かせるための工夫
- 振り返りの充実

【学習計画の工夫】 ■小・中の発達段階・教科の特性に合わせて実施

単元の導入時に、子供と一緒に学習計画を作成することで、学びの道筋を可視化できるようにした。授業を進めていく過程で、最初に立てた計画に変更がある際は、その都度、学習計画に加除・修正を行いながら、学びを更新させていった。



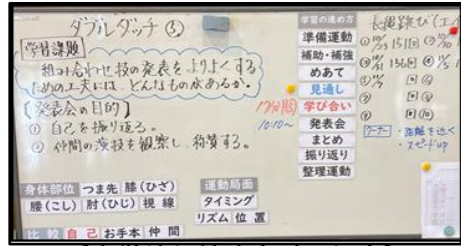
【5・6年国語科 学習計画表】

【自己選択・自己決定の場の設定】 ■小・中全教科単元を通して設定

「学びの羅針盤」（令和7年3月鹿児島県教育委員会）を参考に、子供が自己選択・自己決定ができる機会を設けたことで、学習過程を複雑化できるようにした。

【見方・考え方を働かせるための工夫】

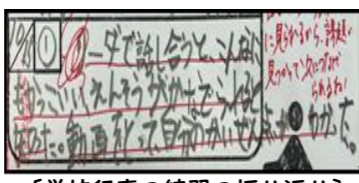
教科の「見方・考え方」を働かせるための視点を整理し、カード化して提示してきたことで、子供が見方・考え方を働かせながら学び合いや振り返りを行うことができるようになった。



【中学校保健体育科の板書】

【振り返りの充実】

教師が、一人一人の学びのプロセスを見取り、学び方のよさ等を価値付けたことで、子供が自信をもって学び進めていくことができたようになった。



【学校行事の練習の振り返り】

自己実現に向けた組織活動班の取組

- 主体的に取り組む家庭学習
- 相互の取組を認め合う環境づくり
- 子供が参画する学校行事

【主体的に取り組む家庭学習】 ■小・中相互の取組を共有・価値付け

授業を通して育成する自律した「学び方」は、そこで完結させるのではなく、家庭学習へつなげる必要があると考えた。そこで、宅習をアップデートさせる取組として、中学校のテスト期間に合わせた小学部の宅習自慢コンテストを実施している。また、中学部は、テストの予想問題の作成を行ったことで、授業とのつながりを意識した家庭学習につながった。



【相互の取組を認め合う環境づくり】 ■小・中の学びの系統性を可視化

小中の全授業で行っている授業の振り返り記述、各教科の主体的な学習の取組を可視化し、学びのつながりを実感できるようにした。



【子供が参画する学校行事】 ■児童生徒会が連携・協力

学校は、子供が社会に出るための準備をする場所であり、社会的自立を育む重要なフィールドという認識の下、様々な学校行事の企画運営を子供と一緒にやっている。

子供が参画する学校行事	【運動会を子供主体の行事に転換】	
	従来の運動会 見ばえ重視	今年の運動会 学び重視
★競技内容 ★ダンスの振り付け	教師が考える	児童・生徒が考える
★練習方法	教師が教える	中学生が小学生に教える
★練習時間	多くの時間を 使って	体育の 授業時間内で

子供たちがよりよく学び育つ基盤をつくる子供理解班の取組

- 互いのよさや違いを認め、仲間を思いやる子供の取組
- 子供の多様性を理解するための教師の取組

【ほめる時間の設定】 ■小・中全学級で実施

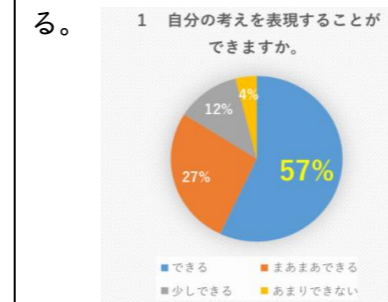
子供が、自分のよさを自覚し、それを学びや活動に生かしていくことができるようにするために、各学年の発達段階に応じて、全学級で帰りの会や短学活を活用して「ほめる時間」を設定した。本校は、どの学級も少ない人数であるため、在籍する子供全員が十分にほめられる機会が確保される。友達のよさに目を向け、互いの個性を大切にしようする温かい風土が学級内に醸成されていった。



【中学部短学活での「ほめる時間」】

【朝鑑賞の実施】 ■小・中混合のグループを意図的に構成

互いのものの見方や考え方には違いがあること、それを受容することで自分の見方や考え方が広がったり深まったりすることを教員共に味わうことをねらいとして、朝鑑賞（朝の作品鑑賞）を実施している。



【R7.1月のアンケート結果】

【小・中合同で行う朝鑑賞】

【GL (Green-Light)】 ■小・中全職員で毎月1回実施

子供の悩みやつまづき、頑張りなどについて、小中全職員で情報交換を行い、共通理解を図っている。そうすることで、チームで子供一人一人に寄り添った教育ができるようにしている。

褒める・価値付ける 寄り添う・配慮する

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の取組 ● 児童生徒会活動 ● 家庭学習の取組 ● 少年団、習い事の活躍 ● 各種検定試験の挑戦 ● 家庭でのお手伝い ● 趣味、特技 | <ul style="list-style-type: none"> ● 友人関係の悩み ● 学習でのつまづき ● 本人の特性 ● 特性への有効な手立て ● 健康、体調面 ● 家庭環境 ● 本人や保護者の願い |
|---|---|

【共通理解のポイント例】



自分で決めることができるから責任感をもって学べます。
(R7 授業づくり班アンケート 生徒の回答)



友達の取組を見て、よいところを真似て宅習に取り組むことで、その日に学習したことをしっかり理解できるようになった。(児童の回答)



自分の考えもいいけど、人の考えも「なるほど!」と思うからおもしろい。(R7 朝鑑賞に関するアンケート 児童の回答)

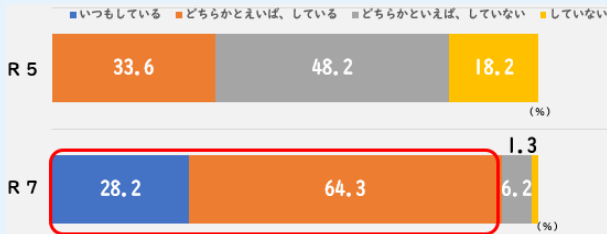
IV 研究の成果と課題

I 実態から (R7.7の実態調査より)

● 学校間連携の視点

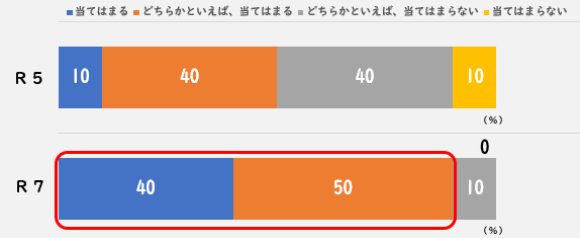
子供の变容

Q よりよい学校を創るのは、自分だと思いつつながら行動していますか。



教師の変容

Q 校内研修では、自ら考え、自ら行動しようとしていますか。



Q 自分たちで学び(授業・行事)を進めることについて【子供の回答】

- 時間はかかってしまうが、みんなの意見や考えがよい形にまとめられて、楽しい授業や行事にすることができる。(中1生徒)
- 自分で考えたりみんなで協力したりした方が、進める力や自分で考えて判断する力がつくなあと思った。(小4児童)
- 中学生になっても、小学校のときと同じように学べるからやりやすい。(中1生徒)

Q 本研究を通しての気づきや考えの変容について【教師の回答】

- 授業では、教えるということに重きを置いていたが、子供たちが考え合う時間を大切にしたいと思えるようになった。子供たちに任せることに対して不安だったが、実際に任せてみて、予想を超えた力を発揮することがあった。一緒に学んでいる感覚がある。(中学部教諭)
- 小・中の壁が無くなり、互いのよさや強みを生かしていこうという意識が変わった。(小学部教諭)

2 成果と課題

【成果】

- ボトムアップ型で研修を創っていくことで教師一人一人が当事者となって研究・実践を進めていくことができた。
- 子供を主語にした教育活動を行うことで、子供一人一人のよさが輝く場面が増えた。
- 校種や教科の垣根を越えて、子供の姿を基に語り合う文化が醸成されている。

【課題】

- 子供たちの日常生活や実社会と結びつく「実の場」の学びとなるよう、授業や行事等をデザインしていきたい。
- 方法だけではなく、何のためにするのかという「目的」を子供たちともしっかり話し合い、共有していく必要がある。
- 9年間の学びの文脈を意識した授業づくりをしていく必要がある。

Next Vision 今後の研究の方向性

- 「使える知識」が身に付く授業づくりの具体を研究していく。
- 「自立した学習者を育てる」という大きなテーマを共有しつつ、教師一人一人が個人の課題をもち、課題解決に向かって研究・実践を積み重ねていくことができるような校内研修にアップデートしていきたい(教師の「学習の個性化」の充実を図る)。
- 9年間を見通した系統的な指導の在り方について研究を深めていく。

令和6・7年度 研究同人



阿世知 理恵	尾野島 優	城 昭久	里山 智宏	實田 逸郎	澤江 美由紀
鑪 謙治	中里 由佳	西 典子	西岡 真紀子	福山 成晃	藤田 美優
文澤 竹弘	本川 悠平	南 美和代	宮村 雄一郎	森 節子	安田 京子
吉田 由佳	米田 真由美	【50音順】			